

特採日記

～鏡川土佐山編（平成26年6月16日）

高知大学農学部の学生さんが、鏡川で鯉ヘルペスの研究をしている事から、理学博士の今城雅之先生と知り合い、鏡川の鮎の冷水病の研究をしていただくようになりました。鮎の冷水病は年間を通しての鮎のサンプルが必要で一年を通し鏡川の鮎を捕獲し、今城先生に提供しています。

学生さん達だけの特別採捕は捕獲が大変だったとお聞きし、今回も鏡川漁協が捕獲のお手伝いをさせていただきました。捕獲と共に、現在の土佐山の鮎の状況も解りましたのでご報告いたします。

天候 曇り 水温18.5℃（庁舎前・桑尾・弘瀬ともほぼ同じ）

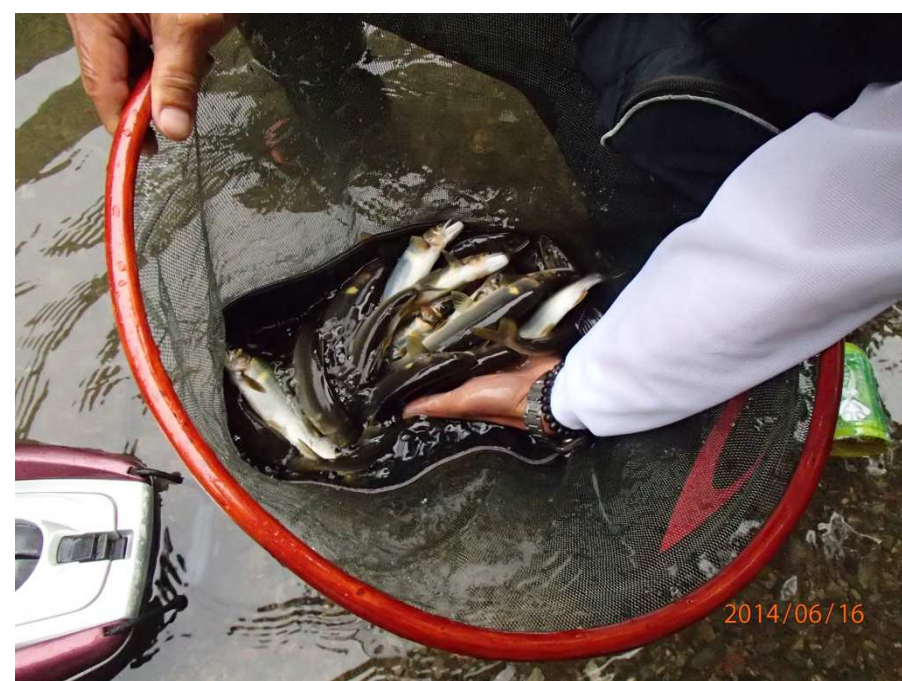
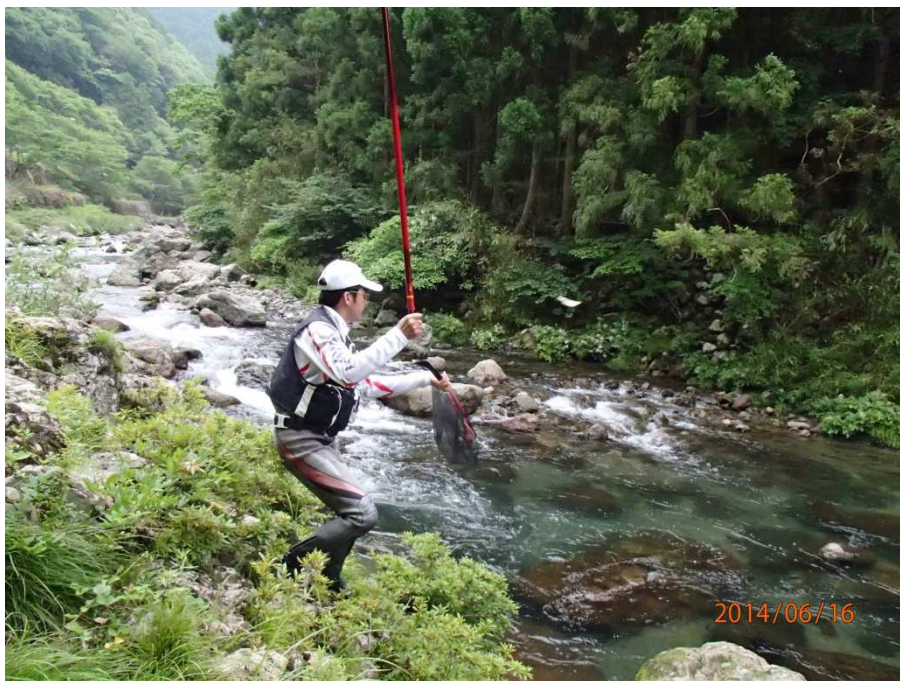
各地区 20匹採捕



2014/06/16

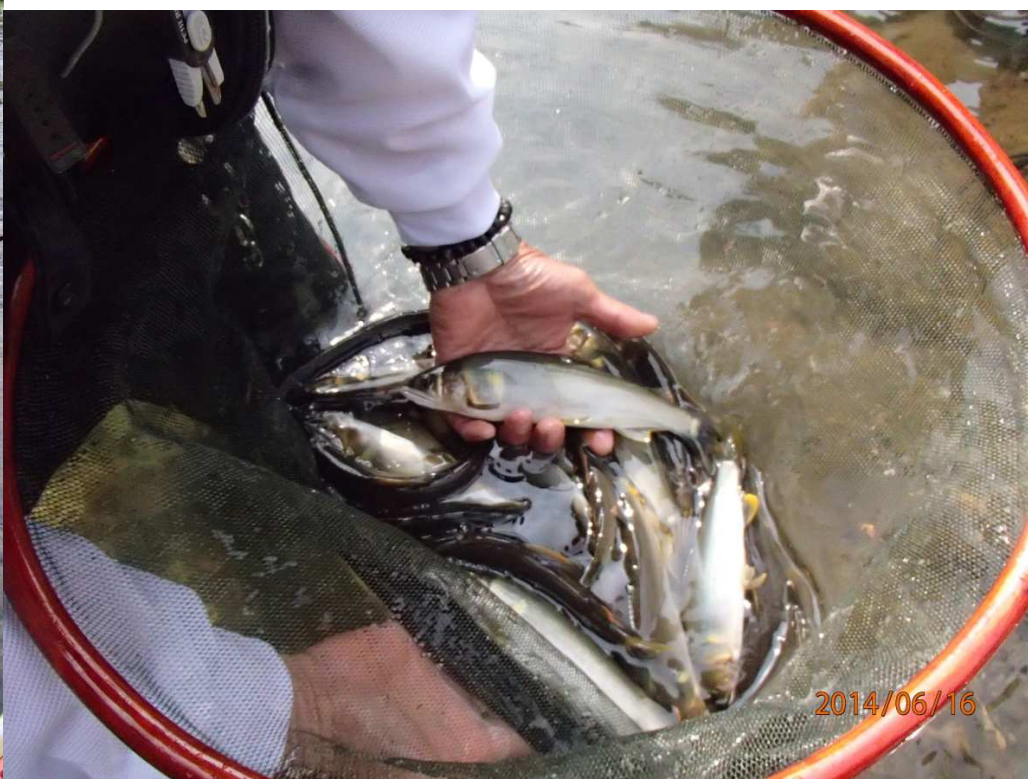
土佐山庁舎前

平均サイズ19～22cm



桑尾（はらいど）

平均サイズ19～23cm



今城先生・大学生も各自全くの初心者ながら3匹掛けました。

弘瀬（弘瀬橋上下流） 平均サイズ19～23cm



特採を行った6月16日は天候にもめぐまれ、各地区30～40分間で予定匹数に達しました。サイズも20cm以上が殆んどでパワーも充分！！予想どおりの釣果を獲ることができました。

なお、鏡ダム上流部全体の鮎生息数については6月19日以降に西日本科学にて潜水調査実施予定。



特別採捕した全ての鮎は、今城先生に提供し冷水病の研究に使用して頂きます。

鏡川漁協特採隊